



## 八橋人形の歴史

八橋人形は粘土を型抜きして焼き、顔料で絵付けする素朴な土人形です。

江戸時代の安永～天明(1772～89年)頃、京都伏見の人形師が伝え、初めは秋田市川尻鍋子山村(近秋田市立病院付近)で、後に秋田市八橋地区を中心に作られるようになりました。

江戸期から明治初期の古いものは伏見人形の影響が強く、明るく華やかなものだったものが、大正、昭和と時代がくだるにつれ、重量感のあるものへと変化しました。今、八橋人形として手に取ってみる事のできるものの多くは昭和以降に作られたものです。

## 愛されてきた八橋人形

八橋地区には天神信仰の菅原神社があり、お祭りの際には天神様の人形が沢山売られたといいます。天神人形は「八橋のおでんつあん(天神様)」と呼ばれて親しまれました。

男の子が生まれると天神様、女の子が生まれるとおひな様を買って祝うことも多く、長く庶民の生活中に寄り添ってきた人形でした。

## 寿光園の屋根の下

第141号  
令和3年5月  
発行元  
高清水寿光園

## 令和3年度 ご挨拶

施設長 須田剛

剛

今年度より、高清水寿光園施設長に任命されました須田剛と申します。前任の柴田融施設長は、4月1日をもちまして同法人の障害者支援施設雄高園施設長として務めておられます。

私はこれまで上北手にあります特養南寿園で勤務しており、この度初めての異動となりました。まだわからぬこともあります。ご不便をお掛けすることもあるかと思いますが、ご利用を頂いていた皆様、地域の皆様、関係各位からこれまで変わらぬ、ご理解を果たしていきたいと存じます。

さて、現在もなお世界中で猛威をふるい、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症は、施設においても面会の一部制限やイベント、行事の縮小を余儀なくされ、以前のように気軽に外出することが

難しい状況が続いている。そのような中、ご利用の皆様、ご面会に来られた皆様に破顔一笑して頂けるよう職員のアイディアにより、それぞれの自宅に眠っている『こいのぼり』を地域交流スペースに泳がせました。色も大きさも様々で大迫力です。また、ご利用者の三浦タキ卫様より、ご寄贈を賜りました八橋地区に古くから伝わる郷土玩具『八橋人形』も飾らせて頂き、「珍しい!」「なつかしい!」「初めてみた(笑)」と会話も盛り上がり、ご利用者も職員も楽しませて頂いています。暗くなりがちな話題が多い中、アイディアを出し合い、創意工夫をしながら、職員もご利用の皆さんも、より一層笑顔が溢れる施設であります。

今後は更に、感染や災害への対応力強化や科学的介護などの取り組みを推進し、高清水寿光園が一丸となって、皆様に必要とされる拠点となるよう努めて参ります。

今後も皆様のお力添えを頂きました。よろしくお願い申し上げます。

